



大森二中だより

令和3年度 大森二中の合言葉「思いやり」
スローガン 笑顔満開 いつも心に太陽を！

令和3年度
令和3年度卒業式号
大森第二中学校
校長 成清敏治
電話 3762-6456

第75回卒業式式辞

春の生命の息吹が感じ取れる爽やかな時季になりました。本日この良き日に、第75回卒業式が挙行できますことを、心から御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染予防対策で、人数が制限され来賓の方々や在校生のいない少し寂しい卒業式にはなりましたが、皆さんにとっては、最初で最後の中学校の卒業式です。何年か経ったときの最高の思い出として、強く印象に残る卒業式になると確信しております。

保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。義務教育修了の節目を迎えたお子様の晴れ姿は、とても感慨深いものです。

この2年間、新型コロナウイルス感染症により、あらゆる行事が延期・中止になり、気を揉んだ日々だったと思われれます。そのような厳しい状況の中でも、保護者の皆さまが本校の教育活動や困難な対応にご理解をいただいたこと、衷心より感謝申し上げます。

最初に、ロシアによるウクライナ軍事侵攻において、多大な市民の犠牲が出ており、戦争の悲惨な映像が毎日のように流されています。戦争で苦しむのは普通に暮らしている市民です。一刻も早く即時停戦を願い、ウクライナの人々が平穏な生活に戻れるよう祈っていきましょう。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。中学校3年間、そして義務教育9年間の教育課程をすべて修了いたしました。その証が今、手元にある「卒業証書」です。

4月から新しい生活が始まります。毎日が充実した生活であればよいですが、社会の荒波に物事が前に進まないようなことがあるのも事実です。そうした時に心の原点である思いやりをもって過ごした大森二中での楽しい学校生活を思い出してください。愛情いっぱい支えてくれた人々への感謝の気持ちを忘れずに、前向きに堂々と生きてほしいと思います。

今日は皆さんの門出に、2度のノーベル賞に輝いた唯一の女性として知られるマリー・キュリーの生き方を紹介します。

彼女はロシアの支配下にあったポーランドで5人きょうだいの末っ子として誕生しました。8歳のころ、大きな試練に襲われます。お姉さんを病気で失い、さらに2年後には母を結核で亡くします。それ

でも彼女は前を向いて、15歳の時に最優秀の成績で女学校を卒業しました。しかし、当時のポーランドでは、どんなに成績が優秀でも、女性がそれ以上、学問を続けることはできませんでした。16歳で家庭教師として働き、同じ頃に祖国復興をめざした「移動大学」で学び始めました。その頃、友人への手紙に彼女はこう記しています。

「第一原則、誰にも、何事にも、決して負けないこと」

この強い心が、彼女を支えていきました。

彼女はパリ大学の留学をめざしましたが、経済状況が厳しく、3年間家庭教師の住み込みで働き、資金をためて姉夫婦が暮らすパリへ行きました。博士号の取得をめざして実験に挑み、未知の元素を突き止めようとしています。その存在を証明するため、大きな実験室で作業ができるよう大学に掛け合いますが、希望はかなわず、借りられたのは、医学生の実験室として使われていた物置小屋でした。それでも彼女は

「どんなに不適當な場所にいても、やり方しだいで、いくらでもりっぱな仕事ができるものだ」

と確信し、研究を続けていきます。夏は焼けるように暑く、冬は凍るように寒い実験室ですが、地道に作業を続け、1903年、放射能研究の功績が認められ、夫妻でノーベル物理学賞を受賞しました。

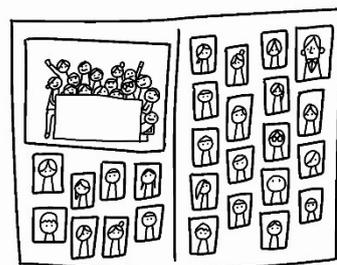
ところが、順風満帆には人生はいきません。パリ大学の教授に就いていた夫が、荷馬車にひかれ、この世を去ってしまったのです。しかし、不屈の闘志を燃やし、夫との誓いを果たすため、彼女は講師を経て、パリ大学の教授に就任します。その後、外国人の偏見や女性差別などを乗り越え、研究を積み重ね、44歳で2度目のノーベル賞に輝きます。

彼女は後年、娘に宛てた手紙にこうつづっています。

「私たちはきっと勇気もちつづけるでしょう。雨のあとは、きっと晴れというしっかりとした希望をもっていなければなりません」

皆さんに伝えたいマリー・キュリーの生き方は、『悲哀に負けない強さ』です。これから何が起こるかわからないのが人生です。絶対に希望を忘れてはいけない、自分を見捨ててはいけない、雨が降れば次は必ず晴れる、との希望や確信が、人生を豊かにしてくれます。

最後に、これから社会の荒波へ羽ばたく皆さんに『逆境に負けるな、運命に翻弄されるな、そして自分に負けるな』との言葉を贈り、式辞といたします。



令和4年3月18日

大田区立大森第二中学校長 成清 敏治